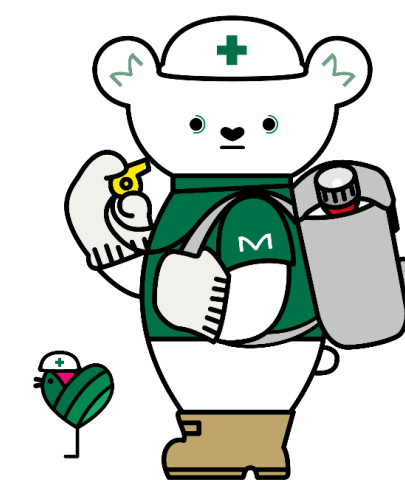


災害時における処方オーダー薬の供給体制の課題 ー多数傷病者受け入れ訓練を通じてー



森川祥彦¹⁾、田坂健¹⁾、赤阪未来¹⁾、寺村文恵²⁾、家城洋平²⁾、
向原里佳¹⁾、岸和田昌之²⁾、岩本卓也¹⁾

1) 三重大学医学部附属病院 薬剤部
2) 同 災害対策推進・教育センター



三重大学医学部附属病院
公式マスコットキャラクター
ミーベとミッピー

背景

三重県は南海トラフ大地震の際には地震や津波による甚大な被害が想定される。三重大学医学部附属病院(以下、当院)は地域災害拠点病院であり、災害時には被災した中で多数の傷病者を受け入れる役割を担う。災害時の処方オーダーは災害時新設部門の設置や電子カルテが使用できない場合を想定し、平時のオーダーリングシステムの他に、手書き処方箋を用いた運用についても検討しておく必要がある。一方、当院の電子カルテシステムは、災害対策が整備されているため、ハードウェアが損壊しなければオーダーリングシステムは使用可能であることから、利便性や迅速性を考慮すると電子カルテと紙処方箋によるオーダーリング併用が現実的である。これまでに、薬剤部では過去の防災訓練にて処方箋を用いた運用について検討を行ってきた(森川ら.第31回日本医療薬学会総会 2021)。

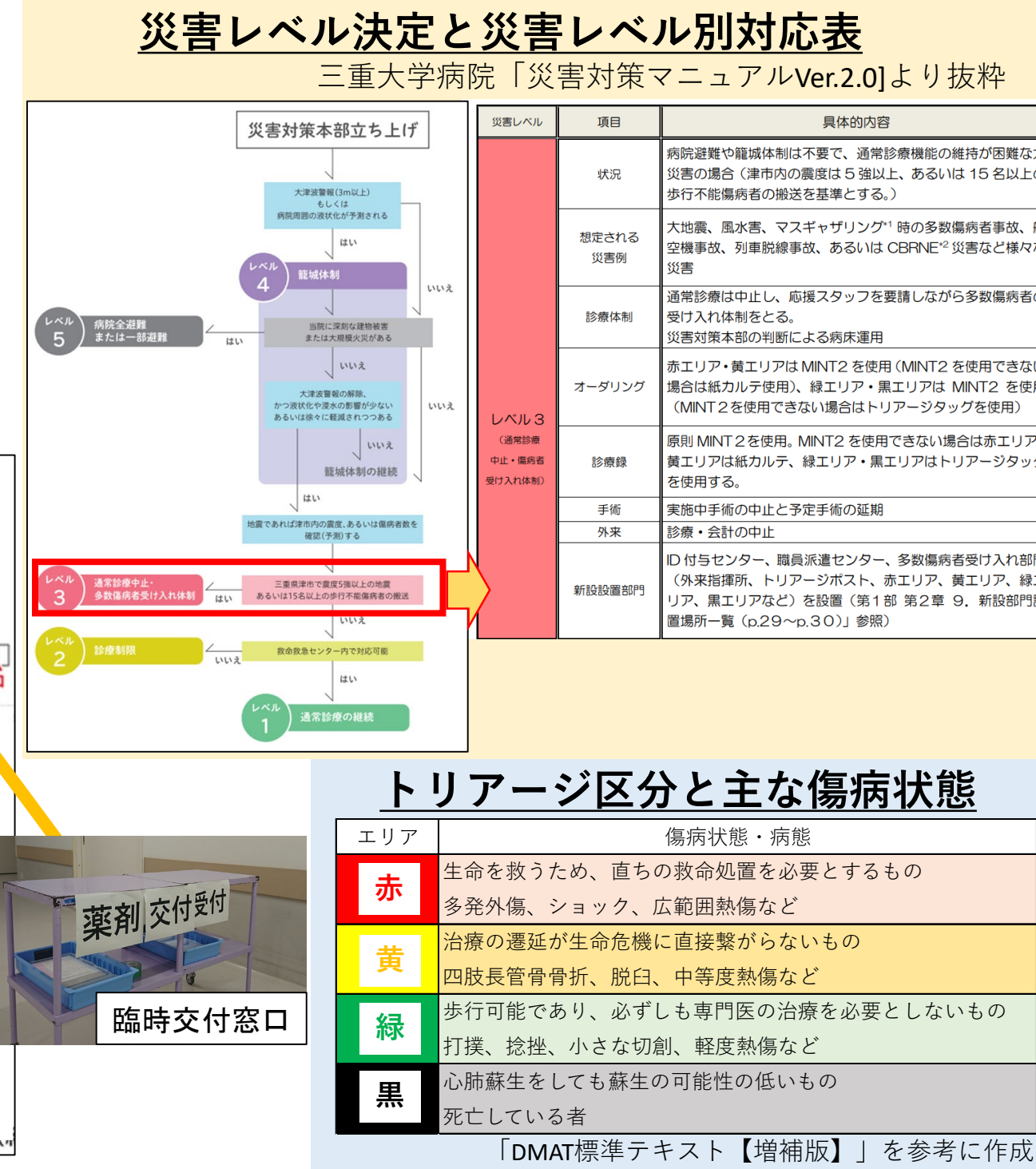
今回、薬剤部では多数傷病者受け入れ訓練において、電子カルテによるオーダーリングシステム使用を主とした医薬品供給訓練を行ったため、その時の医薬品供給状況と今後の課題について報告する。

**南海トラフ地震発生時の
当院周辺の被害想定**

震度:7
津波高:3.5m
死者:441人
負傷者:1,719人(うち重傷者※:442人)
※30日以上の治療を要する傷病者
避難者:27,672人
「津市防災マップ」データから算出

方法

【訓練概要】「南海トラフ大地震発生を想定した災害時多数傷病者受け入れ訓練」
日時:2022年2月19日(土) 8:30～12:00
場所:当院外来棟1階、4階、他
参加者:312名(主な参加者:当院職員:155名※、三重大学学生:132名、津北消防署・他病院DMATなど:25名)
※薬剤部:5名(薬剤部長、薬剤部災害・防災チーム4名)



調剤訓練の概要(災害レベルの「レベル3」を想定)

- トリアージレベルの赤・黄・緑エリアからオーダーリングシステムより処方オーダー。
- 併せて、手書き処方箋を赤・黄・緑エリアに配置。
- 災害時に臨時発行される患者ID番号を使用し、通常診療との区別。
- 薬剤部にて処方発行・調剤・鑑査を実施。
- 薬剤の交付は薬剤部前に設置した臨時交付窓口で実施。
- 医薬品の調剤・鑑査・交付は薬剤師3名で実施。



結果

訓練時間は90分間、受け入れ患者数は60人であった。

■処方量

- 処方オーダーリングシステム
内服処方:7枚8件51剤(黄エリア:1枚、緑エリア:6枚)
注射処方:13枚15件16剤(赤エリア:11枚、黄エリア:2枚)
- 手書き処方箋:6枚12件78剤(すべて緑エリア)

■疑義照会

- 1件(ニカルジピン原液末梢投与に対して疑義照会)

■エリア別の処方件数及び処方内容

- 赤・黄エリアで薬剤の受け取りに来ない処方箋が多かった(図1)。

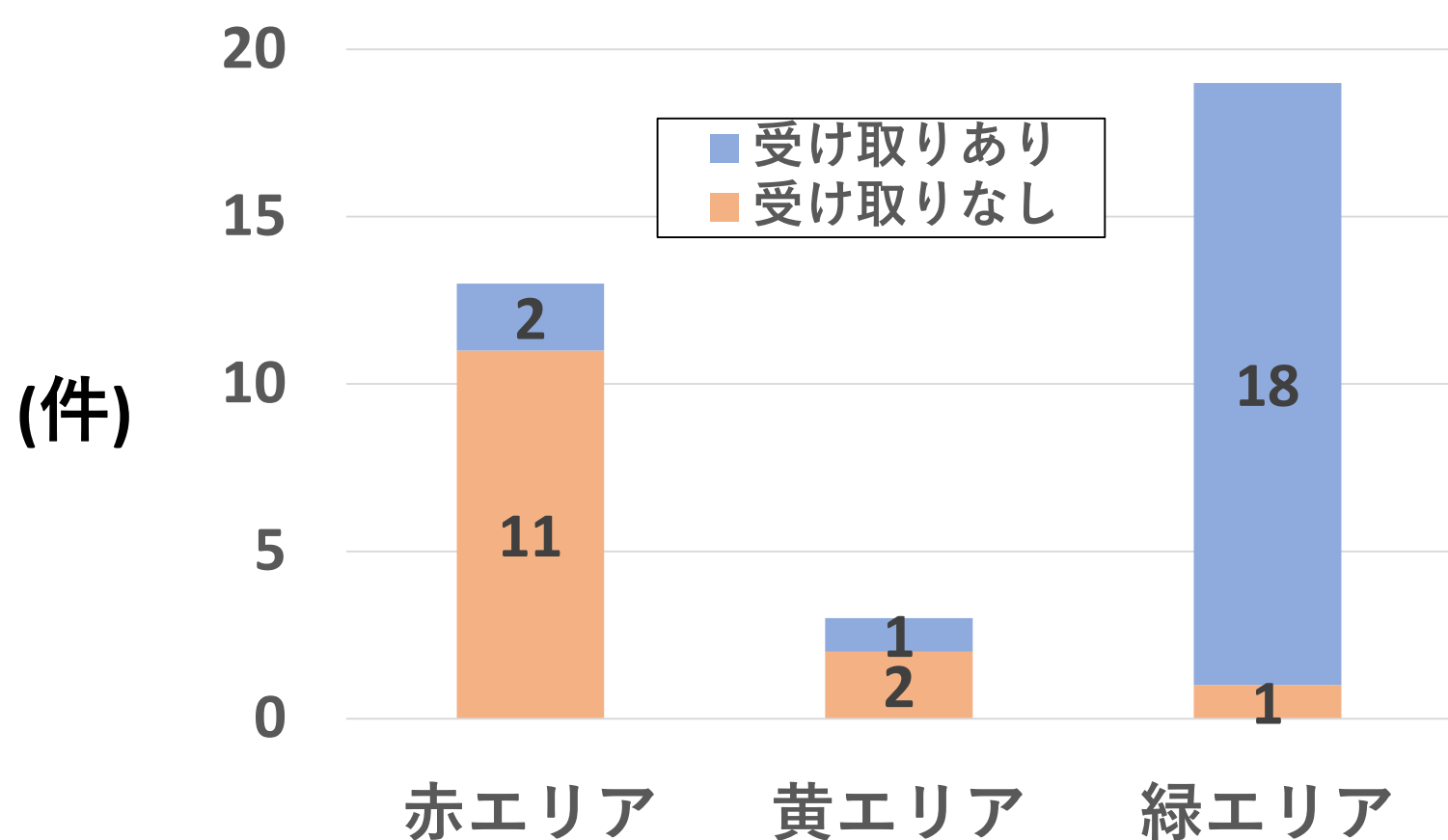


図1 エリア別の処方件数

薬剤部訓練の様子



- 赤・黄エリアでは細胞外液補充液の処方が多く、緑エリアでは鎮痛薬・抗菌薬の処方が多かった(図2)。

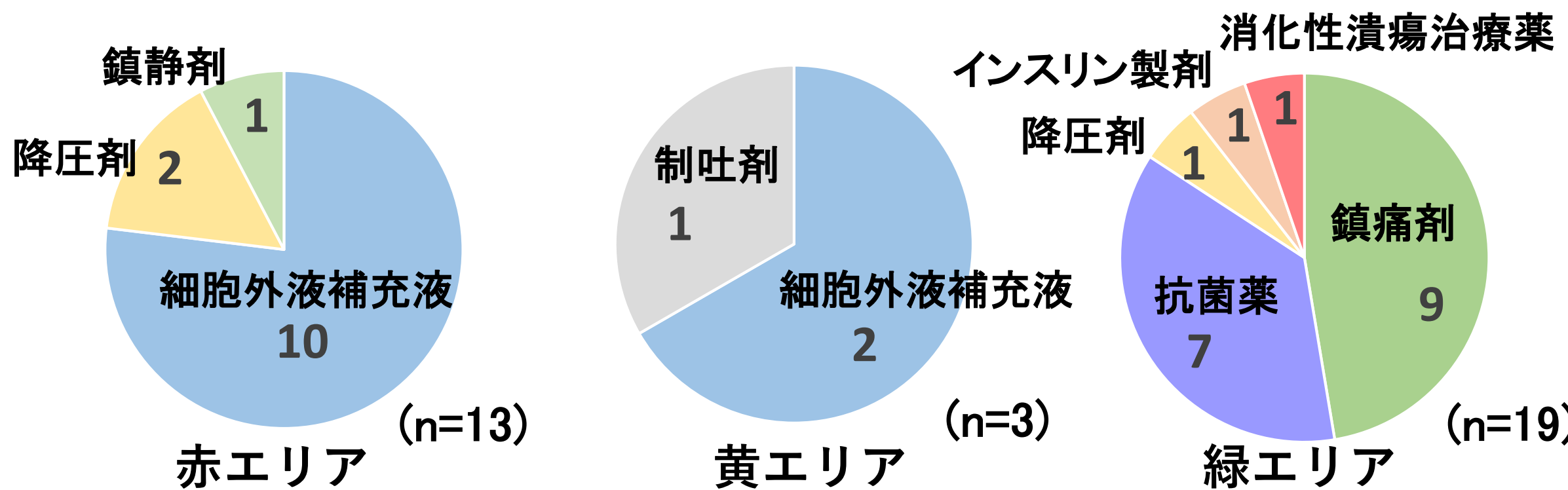


図2 エリア別処方内容(件数)

考察・課題

- 赤・黄エリアでは多数傷病者受け入れ時に業務が繁忙となり、薬剤受け取りの人員確保が難しいことが考えられた。

➡ **出張薬局の展開が必要と考えられる**

- 患者がトリアージされることでエリア別に治療内容が異なり、頻用される薬剤に特徴がみられることが考えられた。

➡ **災害時約束処方の設定、オーダーリングシステムへ登録することで、処方と調剤を効率的に実施できる可能性がある**

第32回日本医療薬学会年会
利益相反の開示
講演発表者名: 森川 祥彦
私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。

本訓練を通じて考えられた課題について薬剤部内で共有し、院内の防災会議・防災WG合同会議にて報告を行った。